

施工業者様へ 施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。この施工説明書と取扱説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

安全上のご注意

- ここに示した **警告** は誤った取扱いをすると、死亡または重傷に結び付く可能性があります。
- ここに示した **注意** は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

この絵表示は、してはけない「禁止」の内容です この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です

| | | |
|--|---|---|
| <p>警告</p> <p>湯水を逆に配管しないでください。</p> <p>器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。</p> | <p>給湯温度は85℃より高温で使用しないでください。</p> <p>85℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p> | <p>加工及び接合、市販浄水器具の取り付け等の改造はしないでください。</p> <p>器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p> |
| <p>警告</p> <p>給湯に蒸気を使用しないでください。</p> <p>器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。</p> | <p>配管などの解氷のため解氷機をご使用の場合、水栓(給水・給湯管含む)には絶対に通電しないでください。</p> <p>通電すると水栓や給水・給湯管が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p> | <p>他所の水栓の使用等により水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。</p> <p>やけどのおそれがありますので、やけどのおそれのないところまで水圧変動をおさえた配管設備にしてください。</p> |
| <p>注意</p> <p>器具に強い力や衝撃を与えないでください。</p> <p>器具が破損し、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p> | <p>めっき部品は、ぶつたり落としたりしないでください。また、鋭利な物や硬い物を当てないでください。</p> <p>めっきの表面が割れて、けがをすおそれがあります。万一めっきの表面が割れた場合は、ただちに新しい部品に交換してください。</p> | <p>配管接続部をテーパねじに接続しないでください。</p> <p>テーパねじに接続すると、接続部がゆるんだり、パッキンが切れたりして、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p> |

| | | |
|--|--|---|
| <p>注意</p> <p>シャワーヘッドの浄水出口は清潔を保つ為、汚れた手でさわらないでください。</p> <p>禁止</p> | <p>めっきの表面が割れた場合は使用しないでください。</p> <p>けがをすおそれがありますので、ただちに使用を停止し、新しい部品に交換してください。</p> | <p>小型電気温水器(即湯器)等に給湯ホースを接続する際は、ステンフレキ管等を介してください。</p> <p>高温の熱により給湯ホースの寿命が短くなり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p> |
| <p>飲料水に適さない水が流出し、体調を損なうおそれがあります。</p> <p>止水栓取り付け箇所や給水・給湯管との接続箇所は、点検口を設けるなど点検しやすい状態にしてください。</p> <p>点検ができないと万一漏水発生時には発見が遅れて家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p> | <p>水道水および飲用可能な井戸水を使用してください。</p> <p>水道水および飲用可能な井戸水以外の水を使用すると、故障や水漏れの原因になったり、体調を損なうおそれがあります。</p> | <p>凍結が予想される際は、少量の水を出しておくか、配管に布を巻くなどして、凍結を防止してください。</p> <p>凍結を防止しないと凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p> |

取り付け前に

- ① 使用水圧 (A=(給湯器の最低作動水圧)+(配管圧力損失))
 - (1) 瞬間給湯器との組み合わせ (設定条件 水温:25℃ 給湯器温度調節:高温 吐水温度:42℃ ハンドル全開) (比例制御式) 最低必要水圧: A+0.10MPa (動水圧)、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)
 - (2) 貯湯式給湯器との組み合わせ (給湯・給水圧力) 最低必要水圧: A+80.0KPa (動水圧)、最高水圧: 0.75MPa (静水圧)
- ② レバーハンドルは全開で使用してください。給湯器が着火しない場合があります。
- ③ 給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。
- ④ 給水圧力が0.3MPaから、0.75MPaまでは止水弁で流量調節してください。
- ⑤ 給水圧力が0.75MPaを超えるときは、市販の減圧弁で、0.2MPa程度に減圧してください。
- ⑥ 給湯器の給湯温度は、安全のため60℃給湯をおすすめします。
- ⑦ 給湯器からの配管は最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。
- ⑧ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯器を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。
- ⑨ 本製品は改造(加工及び接合、市販浄水器具の取り付け等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。
- ⑩ シャワーホースを伝って水がキャビネット内に浸入するおそれがあります。水受けトレーの設置をしてください。
- ⑪ 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

故障かなと思ったら…

次のような現象は故障ではありません。修理を依頼される前にもう一度お確かめください。

➡ 取扱説明書「故障かなと思ったら…」参照

[水栓本体内部のメンテナンスをする場合]

- 【注意】修理技術者以外の方は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。水栓本体内部のメンテナンスは、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。
- ・メンテナンスは、専用工具G26(別売)を使用して本体を保持しながら行ってください。
- ・シャワーヘッドやレバーハンドルを持ってはずすと破損し、漏水のおそれがあります。

取り付け完成図と各部の名称 / 寸法図 / 分解図

寸法図

249 (Total height)
287 (Spout height)
327 (Spout height)
204 (Body height)
86 (Spout diameter)
40 (Spout diameter)
φ52 (Spout diameter)
φ38~φ40 (Mounting hole diameter)
346 (Mounting hole diameter)
367 (Mounting hole diameter)
386 (Mounting hole diameter)
G1/2 (Connection)

取り付け完成図と各部の名称

混合栓レバーハンドル

シャワーヘッド

吐水切換ボタン

本体

浄水レバーハンドル

分解図

この分解図は製品説明図であり、サービス部品の単位を示すものではありません。

| | |
|---------------|--------------|
| 1 キャップ | 31 ナット |
| 2 ねじ | 32 テーパーリング |
| 3 レバーハンドル | 33 座金 |
| 4 固定ナット | 34 Oパッキン |
| 5 カートリッジ | 35 逆止弁付ジョイント |
| 6 吐水口 | 36 逆止弁 |
| 7 ビス | 37 パッキン |
| 8 座金 | 38 ストレーナ |
| 9 ビス | 39 シャワーヘッド |
| 10 スリップ板 | 40 Oリング |
| 11 本体 | 41 パッキン |
| 12 ボンネットユニット | 42 泡まつ器 |
| 13 浄水レバーハンドル | 43 シャワーフェイス |
| 14 ビス | |
| 15 キャップ | |
| 16 銅パイプ固定ブッシュ | |
| 17 固定座金 | |
| 18 スリーブ | |
| 19 ナット | |
| 20 プラグ | |
| 21 ホースガイドA | |
| 22 キャップ | |
| 23 カプラユニット | |
| 24 パッキン | |
| 25 シャワーホース | |
| 26 ホースガイドB | |
| 27 保護キャップ | |
| 28 ジョイント | |
| 29 クイックファスナー | |
| 30 銅パイプ | |

取り付け手順 1

- 1 給水管内の清掃
配管工事後、必ず給湯・給水管内を清掃してください。
- 2 止水栓(別売)の取り付け
給湯管と給水管の間隔は100mm程度で取り付けます。水受けタンクまたはトレーを設置する場合は、水受けタンクまたはトレーの寸法をご確認の上取り付けしてください。止水栓はストレーナ付止水栓が最適です。
- 3 本体の固定
 ① 本体からプラグ、ナット、スリーブ、固定座金を取りはずします。
 ② 取り付け穴周囲の汚れを取り除いた後、KVKマークが向かって左側を向くように本体を差し込みます。その際、本体に貼り付けてあるシートパッキン下面のセパレート紙をはがしてください。
 ③ 吐水管に平らな面を上に向けた固定座金(小さい穴側)とスリーブを通し、ナットにて固定します。
 ④ 銅パイプ固定ブッシュがしっかりとハマっていることを確認してください。外れている場合は、しっかりとハマり込んでください。
 【注意】セパレート紙は必ずはがしてください。セパレート紙をはがさず固定した場合、本体が緩んだり、がたつきが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。専用工具G26(別売)を使用して本体を保持してください。シャワーヘッド、レバーハンドルを持って締め付けますと破損し、漏水のおそれがありますのでこれらは持たないでください。接続は適切な工具(スパナ等)で締め付けてください。締め付けトルクの目安は約1000N・cmです。締め付け不足や締め付け過ぎますと、漏水のおそれがあります。
- 4-1 銅パイプの配管
止水栓と接続した場合、図1のように垂直部分が長くなるように取り付けます。このとき、銅パイプ固定ブッシュがはずれないように注意してください。
 【注意】給水・給湯パイプはR60以上の大きな曲げ半径になるように曲げてください。鋭角に曲げたり、混合栓根元で曲げたりしないでください。図2のような無理な配管はしないでください。配管の抜けや亀裂や破損の原因となり、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。給水・給湯配管は動かないように固定してください。銅パイプが抜け、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

取り付け手順2

4-2

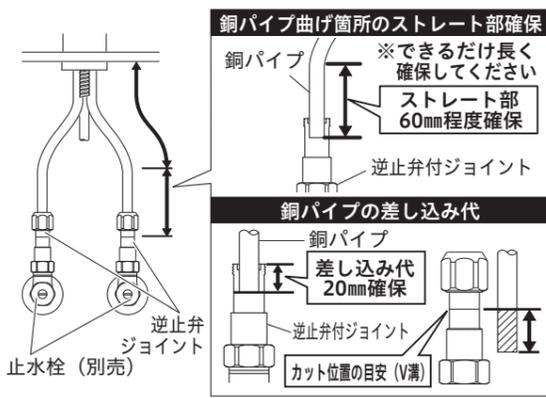
止水栓との接続

- ① 逆止弁付ジョイントを止水栓に仮固定した後、銅パイプの必要な長さを測り、仮固定していた逆止弁付ジョイントを止水栓からはずし、銅パイプを切断してください。このとき、ストレート部60mm程度（パイプの差し込み代20mm）確保してください。

【お願い】
銅パイプの切断はパイプカッターをご使用ください。

【△注意】

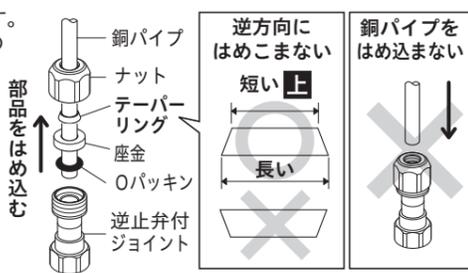
- 銅パイプ切断および曲げ時に銅パイプストレート部には変形や傷などはないようにしてください。変形や傷などにより、漏水の原因となります。



- ② 逆止弁付ジョイントから図の部品をはずします。ナット、テーパリング、座金、Oパッキンの順に銅パイプにはめ込みます。

【△注意】

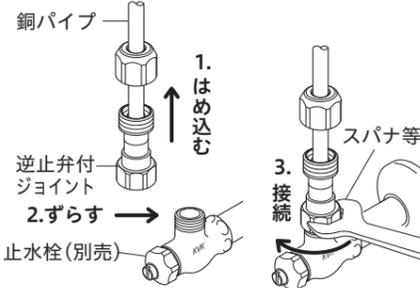
- 部品をはずして銅パイプにはめ込んでください。部品をはずさない状態で銅パイプを逆止弁付ジョイントにはめ込むと、Oパッキンが切れ、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
- 部品は正しくはめ込んでください。特にテーパリング逆方向、Oパッキンがねじれた状態ですと、漏水の原因となります。



- ③ 逆止弁付ジョイントを止水栓からはずした状態で銅パイプにはめ込んでから、止水栓と接続します。

【△注意】

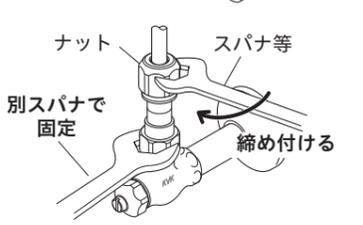
- 接続は適切な工具（200mm程度のスパナ・モンキー等）で締め付けてください。締め付けトルクの目安は約2000N・cmです。（ナット手締め後、工具で約1回転半程度の締め付けです。）締め付け不足や締め付け過ぎると、漏水の原因となります。
- 薄肉の接続管（ニップル等）には、逆止弁ジョイントを接続しないでください。パッキンが切れ、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
- 止水栓がしっかり固定されていることを確認してください。固定されていないと銅パイプが抜け、漏水の原因となります。



- ④ 逆止弁付ジョイントが共回りしないように、別スパナで二面幅を固定しながらナットを締め付け、銅パイプと逆止弁付ジョイントを接続します。

【△注意】

- 接続は適切な工具（200mm程度のスパナ・モンキー等）で締め付けてください。締め付けトルクの目安は約2000N・cmです。（ナットが締めきって金当たりする程度の締め付けです。）締め付け不足や締め付け過ぎると、漏水の原因となります。



5 ページ

5

カプラーユニットの取り付け

- ① (1) プラグを吐水管に取り付けます。

【お願い】

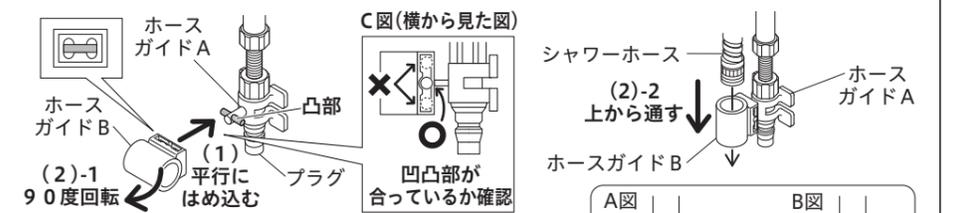
- プラグは確実に締め付けてください。

- (2) 同梱のホースガイドAをプラグにはめ込みます。

【お願い】

- ホースガイドは壁面に固定しないでください。

- ② (1) 同梱のホースガイドBを、ホースガイドAの凸部と平行になるように、ホースガイドAにはめめます。(2) ホースガイドBを90度回転させ、シャワーホースをホースガイドBの上から通します。



【△注意】

- 固定した際、シャワーホースがA図のようにまっすぐ垂れ下がるようにしてください。B図のように、銅パイプに引っ掛けたり、ひねったりしないでください。シャワーホースが破損し漏水により財産などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

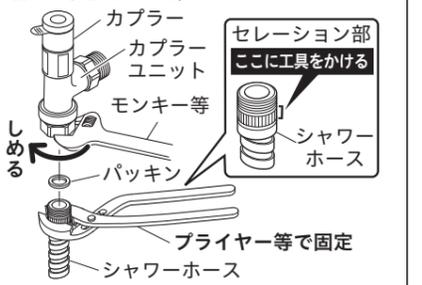
【お願い】

- ホースガイドAとBを横から見て、凹凸部が合っているか確認してください。ずれている場合は合わせてください。（C図）

- ③ カプラーと水抜きユニットの接続が緩んでいないか確認してください。緩んでいる場合はカプラー手締め後、工具で約30度増し締めしてください。（締め付けトルクの目安は約100N・cm）水抜きユニットとシャワーホースを接続します。パッキンをはさみ、水抜きユニット手締め後、工具で約3/4回転増し締めしてください。（締め付けトルクの目安は約200N・cm）

【△注意】

- カプラー等の接続の際は、以下の内容に注意してください。漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。※カプラーの締め付け不足や締め付け過ぎ※シャワーホースのセレーション部以外に工具をかけない※シャワーホースはねじらない



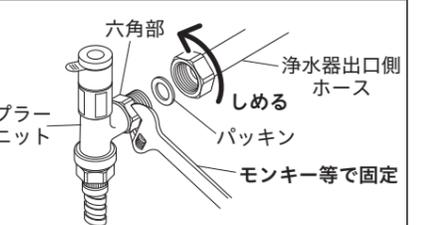
6

浄水器出口側ホースとの接続

- カプラーユニットに浄水器出口側ホースを接続します。その際、カプラーユニットの六角部をモンキー等で固定して締め付けてください。

【△注意】

- 接続は適切な工具（モンキー等）で締め付けてください。締め付けトルクの目安は約1000N・cmです。締め付け不足や締め付け過ぎると、漏水のおそれがあります。

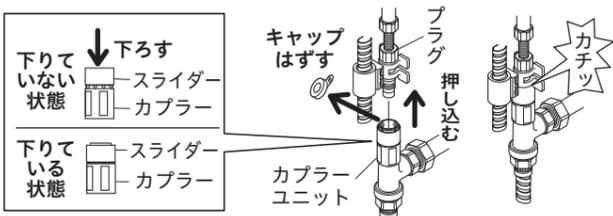


6 ページ

7

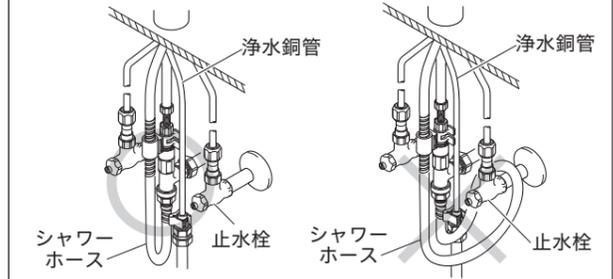
シャワーホースの接続

- カプラーユニットのキャップをはずし、スライダーを下に下ろしてから、本体のプラグへカチッと音がするまで押し込みます。（スライダーがすでに下りている場合もあります。）取り付け後、カプラーを引っ張ってはずれないことを確認します。



【△注意】

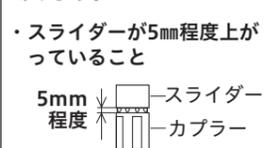
- シャワーホースは止水栓や浄水銅管等につっ掛けしないで、給水・給湯パイプの間にぶら下げてください。シャワーホースが引き出しにくくなったり、ホース損傷により漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。



【流し台に水受け用タンクがある場合】

- シャワーホースの出し入れを繰り返しても確実にタンクに収まるようにしてください。（ホースとの接続の銅管部を少し曲げることで調節できます。）

- 【△注意】
カプラー取り付け後、確実に接続されているか、以下の確認を行ってください。確実に接続されていないと、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
- ・スライダーが5mm程度上がっていること



- ・カプラーを真下に引っ張ってはずれないこと



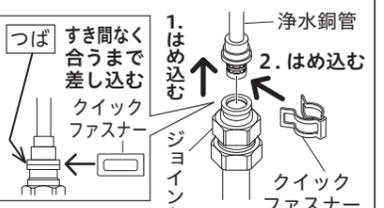
7 ページ

8-2

- ② ジョイントを浄水銅管にはめ込み、クイックファスナーを浄水銅管とジョイントのつばにはめめます。浄水銅管のつばとジョイントのつばがすき間なく合うまで差し込んでください。浄水銅管を曲げる際、銅パイプ固定プッシュがはずれないように注意してください。（C図参照）

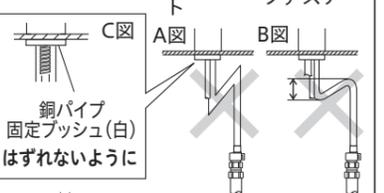
【△注意】

- 浄水銅管はなるべくゆるやかに曲げてください。鋭角に曲げたり、混合栓根元で曲げたりしないでください。（A図）急に曲げたり折ったりすると、亀裂や破損を起こし、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
- 上下戻り配管はやめてください。（B図）ウォーターハンマーなどで浄水銅管が振動した際、屈曲部からの水漏れ発生の原因となります。
- 浄水銅管は切断しないでください。

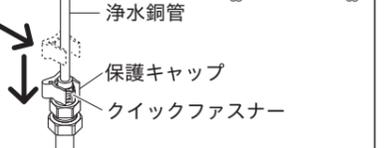


【△注意】

- 浄水器入口側ホースを下に引っ張って、抜けないことを確認してください。しっかりはまっていないと漏水して家財などを濡らすおそれがあります。



- ③ クイックファスナーに保護キャップをはめめます。この時、保護キャップは浄水銅管にはめてから、クイックファスナーまで下ろします。



9

浄水器との接続 浄水器セットの施工説明書を参照してください。

取り付け後の点検と清掃

通水確認

- 【△注意】水栓を取り付け後、通水して湯水の出し止めを5～6回繰り返し、配管接続部及び水栓から水漏れがないことを確認してください。確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

シャワーフェイス・ストレーナ・泡沫器清掃のお願い

- シャワーヘッドのシャワーフェイス・ストレーナ・泡沫器にゴミ等が詰まると、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。

➡ 取扱説明書「日常のお手入れ・保守」参照

湯温・流量調節

- 混合栓レバーハンドルが正面を向いている位置で適温、全開吐水で適量になるように、止水弁で調節します。



8 ページ